

第 10 章 鉱 害

1 概要

本市の石炭産業は、江戸時代末期、片寄平蔵らによって採掘が開始されて以来、最盛期の昭和 26 年には、83 炭鉱、2 万 3 千人の鉱員を擁し、年産 300 万トン前後の採炭量を誇っていました。

しかし、石油エネルギーの普及により衰退の一途をたどり、昭和 51 年 9 月、常磐炭礦(株)西部礦業所の閉山により終わりを告げました。

本市では、このように広く石炭の採掘が行われたため、浅い坑道の崩落によって陥没する、いわゆる浅所陥没の鉱害が毎年発生しており、国県等の関係機関と連携して復旧工事を実施しています。



2 浅所陥没復旧工事

浅所陥没復旧工事の年度別実況及び、平成 24 年度に実施した浅所陥没復旧工事の施工状況は、次のとおりです。

表 10-2-1 浅所陥没復旧工事の年度別実施状況

年度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
箇所数	4	4	7	7	2	5	4	3	80	9
工事事業費 (千円)	4,103	1,094	7,113	4,901	665	2,197	1,150	3,957	23,337	4,775

表 10-2-2 平成 24 年度 浅所陥没復旧工事

(単位:千円)

No.	所在地	被害箇所	主な内容	事業費
1	瀬戸町山下外(4箇所)	農地	土工	2,373
2	山田町大谷(1箇所)	農地	土工	501
3	遠野町滝字山崎(1箇所)	農地	土工	282
4	瀬戸町小玉(1箇所)	水路	土工	370
5	川部町梅田(1箇所)	宅地	土工	483
6	三沢町酒井作(1箇所)	農地	土工	766